

第7章 計画の推進

本計画を適正かつ円滑に実施し、新しいまちづくりを進めていくためには、行財政における体制を整えたり、住民自ら行政へ参加できるシステムを整備していく必要があります。また、21世紀に誕生する町としてのイメージを発信し、交流を促進していくことも重要です。

本章では、これら計画推進のための体制等に関する方針について述べるものとします。

1 住民参加

(1) 住民総参加のための体制の整備

合併後の新しいまちづくりを進めるためには、住民の視点でまちづくりを考えていくことが必要であり、住民が計画づくりの段階から積極的に参加していくことが望まれます。特に合併に伴い周辺部が寂れないように、旧町村単位で「地域審議会（旧町村の住民代表からなる組織）」を設置し、本計画に基づいた旧町村単位の振興を図るとともに、ワークショップ方式を導入するなど幅広い住民の意見を求めながら、まちづくりを進めていきます。

(2) 開かれた行政の推進

本庁や各支所等での情報システムのネットワーク化を推進し、行政やまちづくりに関する情報を合併後の各行政機関で得られるようにします。

また、インターネット等を活用した新町地域情報化プランにより、住民と行政の双方向システムを確立し、行政情報等の積極的な公開とともに、住民による町政への直接参加を推進します。

2 行財政運営の効率化

(1) 組織機構の再編

合併による行政の効率化のメリットが発揮できるよう、管理部門の規模を必要最小限に留めるなど組織の適正化に努め、また、長期的な人員削減が図られるよう定員管理を実施する必要があります。

(2) 職員の能力開発

地方分権化の推進により今後ますます行政ニーズが多様化、高度化していくことが見込まれています。こうした時代の変化に対応するため、専門職の養成をはじめ様々なメニューの研修を実施し、職員の能力の向上を図ります。

(3) 事務事業の改善

限られた予算と人員で、様々な分野の事務事業を遂行していかなければならないことから、コスト削減、外部委託の推進、OA化の推進等を図り、また、職員による改善への提案制度を推進するなど、事務事業の改善を進めていきます。

3 新しい町のイメージづくり

(1) 新町のC I

合併後の新しい町のシンボルマークやイメージキャラクターなどを作り、合併による旧5か町村統合の象徴として、全ての住民が新しい町の誕生を実感できるものとします。

また、合併を記念する公園等を整備し、後世に伝えていくものとします。

* C I（コーポレート・アイデンティティ）＝会社のシンボルやロゴマークの変更、キャッチフレーズの制定、社名の変更等を具体的な手段とする企業イメージ統合戦略で、近年では企業以外でも導入が進んでいます。

(2) 世界へ向かっての情報発信

合併後の新町を21世紀に誕生した日本の豊かな田園地域として、素晴らしい自然や特産物などの中核磨の地域資源とともに、インターネットや広報誌あるいはマスメディアなど様々な情報媒体

を通じて国内のみならず世界各地へ情報発信し、地域を訪れた訪問客と積極的に交流を推進していきます。

地域づくり検討委員会5か町村合同会議の概要

地域づくり検討委員会設置の目的

中球磨5か町村合併協議会においては、新町建設計画基本構想を策定するにあたり、各町村において地域づくりについて検討しておられる住民の皆さんのご意見、ご提言を踏まえて進めてゆくべきであるとの確認のもと、各町村に「地域づくり検討委員会」を設置いただくことになりました。

地域づくり検討委員会5か町村合同会議の概要

平成12年7月14日午後7時から、免田町商工コミュニティセンター「ポッポー館」において、中球磨5か町村の各地域づくり検討委員会の合同会議が開催されました。

各町村から地域づくり検討委員82人及び行政関係者が集まり、和やかな雰囲気の中、ワークショップ形式で、「地域の魅力」、「合併による強み」や「これらを生かした戦略プロジェクト」について、活発な意見の交換がなされました。

中球磨地域の魅力資源

史跡や文化財が多い

(谷水薬師、釈迦堂、りゅう金獣帯鏡、神社、仏像、相良三十三観音 など)

米や農作物がおいしい

(ナシ、イチゴ、メロン等がおいしく豊富にとれる、農業が盛んな地域 など)

中球磨のすばらしい自然

(球磨川の清流、おいしい水、おいしい空気、緑豊かな白髪岳の山々 など)

地域の人々が人情味あふれている

(子供達が素直、人々がやさしい、地域の人達同士の交流が盛ん、飲んだら誰とでも仲良くなれる など)

そ の 他

- ・ポッポー館、ゴルフ場、文化ホールなどすばらしい施設がある
- ・地理的なまとまりがある
- ・焼酎がうまい など



合併による余裕・強み

組織力の強化

(人口が増える、多くの人材が得られる、町の「格」が上がる、さまざまな行政活動を実施できる組織となれる など)

学校が活性化される

(学校の規模が大きくなり学力が向上する、クラブ活動の選択肢が広がる、友達が増える など)

財政力の強化

(職員減によりコスト削減ができる、国からの補助金が増える、財政的な無駄を省ける など)

イベント開催

(いろいろなイベントが盛大にできる、体育大会や各種スポーツ大会が盛んになる など)

スポーツが強化される

(各種スポーツ等で対外的に強いチームを編成できる、郡民体育大会で優勝できる など)

その他

- ・農業が活性化される
- ・企業の誘致が容易になるなど



住民が提案する戦略プロジェクト

< 1班 >

農業の各品のブランド化

< 2班 >

農業と観光を組み合わせることで地域の活性化を図り、都市との交流も図る

< 3班 >

豊かな農林産物

< 4班 >

ブランド農産物（中球磨ブランドを作り出す）

< 5班 >

大型の農産加工場を建設し、流通を図る

< 6班 >

5か町村の観光名所の売り出しに力を入れる

< 7班 >

有機による農産物の統一ブランド化

< 8班 >

人にやさしい安全、安心の食料づくり

< 9班 >

生産者を増して、特産品を売り物にする

これまでの検討経緯と合併までの流れ



若いまち 豊かなまち そして、夢ふくらむ 「あさぎり町」をめざして！

「新町建設計画」の策定経緯

「市町村の合併の特例に関する法律」第5条に規定されている新町建設計画は、合併協議会において協議・策定する重要な項目のひとつであり、合併市町村の建設を総合的かつ効果的に推進することを目的とし、合併市町村の一体性の速やかな確立及び住民の福祉の向上等を図るとともに、合併市町村の均衡ある発展に資するよう適切に配慮されたものでなければならない。（同法同条第2項）と定められています。

計画の以内容は、

- 一 合併市町村の建設の基本方針
- 二 合併市町村又は合併市町村を包括する都道府県が実施する合併市町村の建設の根幹となるべき事業に関する事項
- 三 公共的施設の総合整備に関する事項
- 四 合併市町村の財政計画

となっており（同法同条第1項）、中球磨5か町村合併後の新町『あさぎり町』では、この新町建設計画を土台とした総合計画が策定されます。

中球磨5か町村合併協議会で平成13年9月に策定された新町建設計画の策定経緯と内容は以下のとおりです。

- | | |
|-------------|---|
| H11. 3 | <p>中くま町（仮称）将来ビジョンの策定
平成10年4月1日に設置された「中球磨5か町村合併問題協議会」（任意協議会）において、中球磨5か町村の職員50名で専門部会（5部会）を設置し、行財政の状況、課題等の調査検討が行われたが、企画部会においては、合併20年後の中球磨地域の状況を想定し、ビジョンの骨格として6つの柱（「先進的な農林業社会」、「安定した雇用創出」、「高度な健康福祉社会」、「快適な生活環境づくり」、「生涯学習社会の形成」、「豊かな交流社会」）を設定し、できるだけ具体的な姿を描いた。</p> |
| H11. 4. 1 | <p>中球磨5か町村合併協議会（法定協議会）設置</p> |
| H11. 10. 20 | <p>第1回中球磨5か町村合併協議会企画調整会議
※以降、定期的に開催
・各町村の現況及び振興計画の内容の把握
・新町建設計画基本構想策定に係る資料作成</p> |
| H12. 6. | <p>各町村に「地域づくり検討委員会」の設置
・委員に対して基本構想策定のための個別アンケート調査を実施
・H12. 7. 14 地域づくり検討委員会5か町村合同会議の開催
・各町村の委員82名及び行政関係者によるワークショップ形式での合同会議を開催。
「地域の魅力」、「合併による強み」や「これらを生かした戦略プロジェクト」について、和やかな雰囲気の中、活発な意見の交換がなされた。</p> |
| H12. 9 | <p>新町建設計画基本構想の策定
・9月28日開催 第16回協議会で策定報告・了承
・策定された基本構想について「概要版」を作成し、管内全戸に配布</p> |

- H12. 10 中球磨5か町村合併に関する住民座談会の開催
・ 策定した基本構想の内容説明を行い、地域住民からの意見・要望等を本計画に反映することを目的に10月10日から12月1日まで管内全地区（67会場）において開催した。
- H12. 12 住民座談会の結果を合併協議会へ報告（別添参照）
・ 12月25日に開催された第19回協議会に結果を報告
- H13. 1 新町建設計画作成着手（以降、策定状況を定期的に協議会へ報告）
- H13. 5 新町建設計画（案）を協議会へ提案
・ 5月25日に開催された第24回協議会に計画（案）を提案・説明
- H13. 6. 8 第2回地域づくり検討委員会5か町村合同会議の開催
・ 各町村の委員に対しての計画（案）の説明
- H13. 7 新町建設計画（案）を協議会で原案可決
・ 7月27日に開催された第26回協議会において原案可決
- H13. 7. 30 新町建設計画（案）を熊本県知事へ協議
- H13. 9. 28 新町建設計画策定
・ 9月28日に開催された第29回協議会において県協議の結果が同月27日付けで「異議がない」旨回答があったことを県球磨地域振興局長より報告。
- 県知事からの回答書が協議会長へ手渡された。また、新町名が「あさぎり町」として決定していることに伴う、新町建設のキャッチフレーズとして、将来ビジョンの策定以降『若いまち 豊かなまち そして夢ふくらむ「中くま」』を掲げてきたが、新しい町の建設について住民により親近感を持っていただくために「中くま」を「あさぎり町」と読み替えることが了承された。
- H13. 10. 9 策定された新町建設計画を熊本県知事並びに総務大臣へ送付

